

令和7年10月28日

中標津町議会議長 後藤一男様

中標津町議会議員 松村康弘

研修報告書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 観察名 文教厚生常任委員会道内視察
- 2 観察先 北見市立西小学校（北見市教育委員会）
- 3 観察日 令和7年10月8日（水）
- 4 観察事項 ICT教育の取り組み及びGIGAスクールについて
- 5 成果

北見市立西小学校は北見市において最も古い100年を超える歴史を刻んだ学校であり、北見市教育委員会によりこの学校を会場に視察研修をさせていただきました。

令和2年の文部科学省の呼びかけにすぐに対応してGIGAスクール構想を策定し、標準のクロームブックを採用することで対応する教師の転勤時の負担を軽減し、児童には持ち帰りを前提とした制度設計からスタートしたことでした。

現在ではICT指導力向上から授業力向上へと実践のレベルを上げている一方、教師の学びから児童生徒が学びのDX化に進み、端末活用は生徒たちが主体的に適切な活用方法を判断するレベルに達しつつあるとのことでした。

2025年に文部科学省指定事業リーディングDX事業の指定を受け、デジタル学習基盤を活用した生徒児童の主体的・対話的で深い学び、教師の指導性、教育委員会の組織的伴走支援の具現化を目指しています、との説明を受けました。

さらに校務DXをグーグルアプリで実現、授業が改善され、それが学校DXにつながっている状況を説明いただきました。

その後6年生、4年生、2年生の授業を参観しましたが、端末はキーボード付きのラップトップパソコンでローマ字のブラインドタッチはすさまじく早く、どのキーを押して



北見市立西小学校前で

いるのかわからないほどでした。

6年生の授業は社会科の歴史で室町時代の『産業の発達と力をつける人々』というテーマに対して要点を教科書から抜粋し、まとめてその後グループによる合意形成をしていくものでしたがノートと鉛筆では4時間かかるものが1时限の授業で終わる有様に驚愕しました。

当常任委員会は教育委員会から我町のGIGAスクールの状況について説明を受けたり授業を視察してはおりません。早急に実施すべきものと考えました。

2 観察先 大雪かみかわヌクモ（上川町）

3 観察日 令和7年10月9日（木）

4 観察事項 未来型公民館について

5 成果

旭川のホテルを出発して上川町に向かいましたが、以前あったレストハウスが閉鎖されており、高速道路による人流の減少と地域の過疎化が急激に進行中であることを実感しつつ、目的のヌクモに到着しました。

現地は旧東雲小学校があったところで、そこに残っていた体育館をリフォームして、子どもたちが自由に遊び、学べ、親御さんがそれを見守ったりコーヒーを飲んだりできるような施設となっています。入っていくと大雪山をイメージしたバンク、高さ3.5mがまず目を引きますが、下は滑り台のような傾斜が上に行くにしたがって急角度に垂直にせり上がっています。

施設の概要や運営の在りようなどの説明を聞いた後、自分の書いた絵がチームラボによる「遊ぶ！天才プログラミング」によって腕をあげたりダンスをするさまを見学しました。観察時間には子どもの姿はありませんでしたが、投影された自分の描いた絵と一緒に踊る子供たちの写真が掲示されていて子どもたちには楽しい時間なのだなあ、と実感しました。

子どもたちが遊びながらプログラミングのありようになじんでいくというこのシステムはチームラボという会社によって提案されたということですが、このチームラボが知る人ぞ知るブランドだそうで、その会社が関わっているというだけで知識のある人たちを集客できるのだそうです。

あと、過疎にあえぐ町ではあるが、関係人口増大ではなく感動人口を少しづつでも増やしていく、上川町の素晴らしいところに触れてもらえるような努力をしているとのこと



プログラミングの説明を受ける

で、この大雪かみかわヌクモも新築よりも手間とコストがかかる東雲小学校旧校舎の体育館をリニューアルすることにこだわることで、感動人口増加につなげたいとのことでした。

帰りに玄関先で集合写真を撮りましたが、上川町議会の議長は濱田純子さんとおっしゃる女性で玄関右手にヌクモという幟が建っていて、そのことも公共施設では珍しいのですが、議長に入っていただいて写真を一枚撮らせていただきました。

町の総力を挙げて感動人口を増やそうとする意気込みを伝える写真になったと思っています。

子供たちが遊びながらプログラミングを身近なものとしていく、そういう取り組みがこれから構想される当町の道の駅的な場所に実現できたらと思いました。



大雪かみかわヌクモ

- 2 観察先 富良野市役所・リサイクルセンター
- 3 観察日 令和7年10月9日（木）
- 4 観察事項 ごみ資源化の取り組みについて
- 5 成果

富良野市役所において廃棄物の処理及びリサイクル事業の概要という表題で環境課課長より講演をいただき、その後リサイクルセンターにご案内いただき運営の状況をつぶさに観察いたしました。

富良野市においては現在ごみの分別は14種類であり、生ごみは焼却処分されるのではなく、分別されて下水道汚泥と混せて発酵処理後1m³あたり1300円で肥料として販売されているとのことで、ここから我町と大きな違いがありました。一方燃えるごみは塩化ビニールを人力で除去後、圧力をかけて直径3センチ長さ10センチほどのペレットに整形し燃料として消費しているとのことですが、同時にこの作業によってリチウムイオン電池の除去も為されることでした。

一方ペレットの市内における消費は1割程度であとは札幌の厚別熱供給公社で使ってもらっているとのことでしたが、やはり小規模の間欠運転ではダイオキシンの発生に不安があるように思われました。



リサイクルセンター施設内で説明を受ける

その後リサイクルセンターに案内され燃料ペレットの製造現場や枯草の堆肥製造の状況などを見せてもらいました。捨てられた衣料を回収して洗濯、アイロンがけしてどれでも100円で販売しているコーナーに案内してもらいました。

採算は取れない事業のようでしたので職員たちの心意気に感動して私もセーターなどを買わせてもらいました。

捨てればごみ、分ければ資源を地で行く富良野市民の環境問題において北海道の先端を走っているとの自負を感じるとともに我町にあっても下水道センターで提供される肥料を有償化して、もっと大規模に提供するべきなのだと感じてまいりました。

ちなみに富良野市のリサイクル率は概ね90%を維持していることを行政は市民に積極的にアピールし、市民も分別の収集に努力する様がうかがわれました。

2 観察先 置戸町役場

3 観察日 令和7年10月10日（金）

4 観察事項 子ども・子育て支援について

5 成果

置戸町役場では町長、議長以下総出で出迎えていただきました。

町長は歓迎の挨拶の後退席されましたが、現在「児童館・放課後児童クラブ施設」を建設中でそのために中標津の児童センターも観察されたとのことでした。

平成23～25年度に「5歳児アンケート」を開始、3年間の事業評価の結果、就学前の5歳児に発達障害等を発見し、支援をかいするためにはこどもセンターとの連携及び保護者との面談が必要。また3歳児検診以降、急激に虫歯が増える健康問題についても介入が必要と評価し歯科衛生士による個別歯科指導を組み合わせた「5歳児健康相談」を開始することとなったという説明を受けました。

令和7年からは北見市・美幌町・津別町・訓子府町・置戸町合同の検査体制を検討開始ということで北見地域定住自立圏として日赤北海道看護大学伊藤先生に1市4町の現状を相談して医師の確保について協議中とのことで、先進の取り組みが状況を改善していく様を実感いたしました。

質疑のやり取りのなかで置戸町は社会教育のレベルが高いと自負している旨の提起があり、実際に様々な事業が社会教育の一翼を担う形で実行されている様がうかがわれました。オケクラフトの工房や図書館にも行きましたが人口かって 14000 人が今日 2500 人であったとしても、メインストリートには電線も電信柱もなく、インターロッキングに花々が咲く有様は人々が心豊かに生きて、町を愛しているんだなあと、そんな感動を覚えました。

置戸高校は道内唯一福祉課をもつていて、人財育成に励んでおり、これによって、定員割れによる廃止を免れていることも紹介いただきましたが、道外からの学生も来ているということで我町からも生徒を送り出せないものかと考えた次第です。来年児童センターが活動を開始したらもう一度訪れてみたい町でした。



置戸町との質疑の様子